

◇「浜っ子」別紙◇ 広島平和記念式典中学生派遣事業報告

※本文中のゴシック体は、校長の心に響いたところ

8月5日(水)～7日(金)に広島派遣事業に参加してきました。広島に行って学んだことや、考えたことを報告します。



私が広島派遣事業に参加したと思った理由は、私の曾祖父が戦死したこと、テレビや歴史の時間で81年前の悲惨な現実を知り、戦死者や被爆して亡くなった方やその遺族に、祈りを捧げたいと思ったからです。

広島に行く前に事前学習と

して、「なぜ広島に原子爆弾が落とされたのか」ということを調べました。アメリカが広島に原子爆弾を落とした理由は、原子爆弾の威力と、効果を測定するためだったと言われています。当時の広島は、大きな空襲を受けておらず、市街地が広がっていて、原子爆弾の破壊力を正確に測定するために都合がいいと選ばれました。莫大な予算を投じて開発した兵器を実戦で確かめるという目的もあったそうです。また、広島は日本軍の司令部や部隊、軍需関連施設などがあったのも理由の一つだったそうです。

袋町小学校

爆心地から約460mと非常に近いところで被爆した小学校



伝言板

西校舎の壁面が伝言板として使われていた。家族や行方不明者の安否を尋ねる人々が書き残した。

これは袋町小学校を見学した時の写真です。袋町小学校は、原子爆弾の爆心地である島病院から、約460mというとても近い場所で被爆した小学校です。鉄筋コンクリートで建てられた西校舎だけが焼け残り、被爆直後は救護所として使われていたそうです。

左の写真は、袋町小学校で

実際に被爆した太鼓です。太鼓は普段叩いてもなかなか破れないものですが、太鼓の面の部分が大きく破れていました。このことから、原子爆弾は一瞬で物を壊してしまうほど、とても大きな威力を持っていることがわかりました。それと同時に、これほどの威力を持つ原子爆弾は、とても恐ろしいなと思いました。

右の2枚の写真は、伝言板として使用されていた西校舎の壁面です。家族や行方不明者の安否を尋ねる人たちの伝言が書き残されています。残されている文字から、原子爆弾の威力だけでなく、大切な人と突然離ればなれになった人たちの苦しみも伝わり、胸が締め付けられました。

平和記念資料館

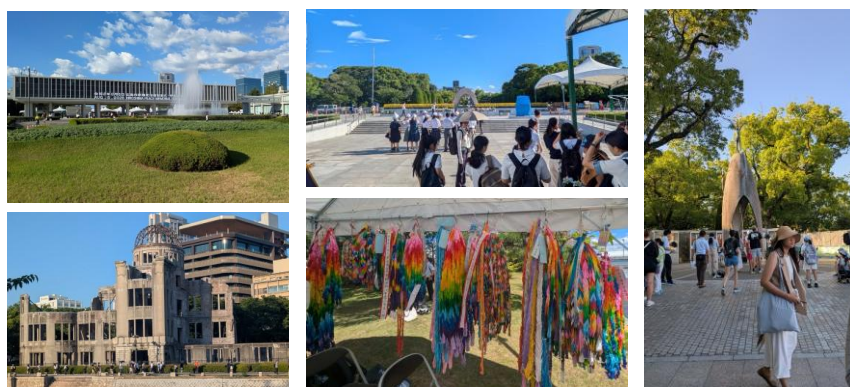


平和記念資料館の見学では、放射線や熱線についての資料がたくさんありました。まずは放射線についてです。原子爆弾に入っていた放射線を大量に浴びてしまうと、全身に紫色の斑点ができてしまうそうです。斑点ができた方の多くが短期間で亡くなってしまったため、「死の兆

候」や「死の斑点」として恐れられていました。死の斑点だけでなく、髪の毛が抜け落ちてしまったり、下痢や嘔吐がずっと続いてしまったり、鼻血や吐血が止まらなくなり、亡くなっていく方が多かったそうです。

次に熱線についてです。熱線とは核爆発の瞬間に発生する高熱の光とエネルギーのことです。爆心地周辺の地表面温度は、約 3000 度～4000 度だったそうです。実際に被爆した三輪車や弁当箱を見学しました。三輪車のハンドルが曲がり、弁当箱はゆがみ、真っ黒なことから、熱線がとても高温だったことがわかります。また、左下のワンピースは、熱線と爆風の影響で裂けてしまっています。直接熱線を浴びて、衣服が引き裂けている人、皮膚がただれている人、真っ黒に焼け焦げてしまった人もいたそうです。被爆した人々は水を求めて川に飛び込んだ人が多くいたそうです。そのため、川にたくさんの遺体が浮いていたそうです。被爆者の方は、その光景に慣れてしまい何も感じなかったとおっしゃっていました。遺体が見慣れてしまうくらいあるというのは想像ができません。たった一発の爆弾が多く命を奪い、さらに、被爆して生き残った人々に長期にわたる後遺症や苦しみをもたらす、原子爆弾はとても恐ろしいものだ改めて感じました。

平和記念式典



8月6日(木)に行われた平和記念式典にも参列しました。私が、式典を通して心に残ったことは、**子供代表の「平和とは、誰かに与えられるものではなく、世界中の人々で創り上げる」という言葉です。**私は、世界のどこかに核兵器が一つでも残っている間は、世界平和を実現

できないと思います。広島に原子爆弾が落とされた時、核兵器は世界中にたった数発しかありませんでした。ですが、現在では約 1 万 2000 発という大量の核兵器を、アメリカや中国など、世界の計 9 カ国が保有しています。そして、現在でも製造し続けている国があります。

私は、なぜ世界から核兵器がなくならないのかを考えてみました。**広島平和記念資料館の入館者数は、3年連続で過去最高を更新し、広島平和記念式典も過去最高の123の国と地域からの参列と、平和に向けた姿勢が世界各国でも高まっています。それなのに、なぜ、今でも核兵器が増え続けている**のでしょうか。日本は、世界で唯一の被爆国です。逆にいうと、核兵器を使用することで、壊滅的な被害がもたらされることの恐ろしさや、罪のない人々の命や人生が一瞬にして奪われてしまうことの悲惨さを知っている国は、日本しかありません。そのため、いまだに核兵器を保有している国は、そのことをよく理解できていないのだと思います。**だから日本に住む私たちが、まだ核兵器を保有し、製造し続けている国に、核兵器が与える影響や威力、恐ろしさ、そして81年前に実際に被爆した方のお話を、もっと伝え、広めていかなければいけないと感じました。世界中の人々が核兵器の恐ろしさについてしっかりと理解することで、世界から核兵器をゼロにし、子供代表の「平和とは、誰かに与えられるものではなく、世界中の人々で創り上げる」という言葉を、実現できると考えました。**

原爆死没者追悼平和祈念館・レストハウス



コンクリート破断の跡と、
原子爆弾の爆風で抜け落ちた
屋根の一部



広島原爆死没者追悼平和祈念館の
地上部モニュメント



被爆前の広島の前並み



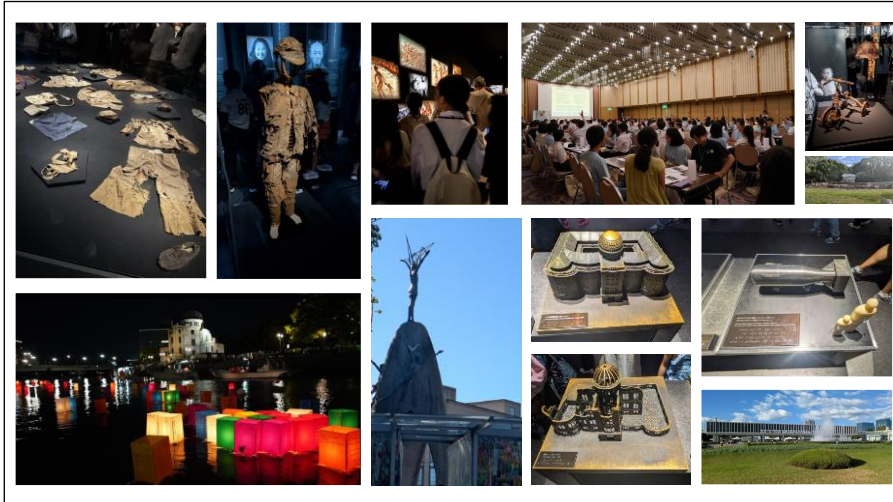
復興を願いたてられた旗

最終日は、原爆死没者追悼平和祈念館やレストハウスなどを見学しました。上段中央の写真は、原爆死没者追悼平和祈念館のモニュメントです。このモニュメントは、時計を表していて、広島に原子爆弾が投下された8時15分を指しています。また、中央のモニュメントの周りにある

瓦礫は、すべて、原爆によって生じた瓦礫で、よく見るとお茶碗や、当時の人が生活する上で使っていたものが置いてありました。

私はこの3日間の中で、原爆死没者追悼平和祈念館で見た映像資料がとても印象に残っています。その映像資料は、被爆者の方の家族が放射線の影響で亡くなられて、遺体を被爆者の方が1人で火葬したというものでした。自分の家族が亡くなるのも辛いと思います。ですが、家族の遺体を自分たちで焼いて火葬したと泣きながら語っているのを見て、本当に胸が痛くなりました。火葬したときに出てきた骨は真っ白ではなく、黒くなっていたそうです。放射線を浴びてしまったため黒くなってしまったそうです。それを聞いて、健康を害すだけでなく、骨の色まで変えてしまう放射線はとても恐ろしいと思いました。

レストハウスでは、原子爆弾が落ちた際、偶然地下室にいた1人だけが生き残ったという話を目にしました。また、生き残った野村英三さんという方は、自分が怪我をしているにも関わらず、子供たちの元へ諦めず、必死に向かったと知って、どれだけ大変な状況でも、大切な人のことを思う気持ちの強さを感じました。



この3日間を通して、原子爆弾の恐ろしさや戦争の悲惨さを改めて学ぶことができました。学校の授業や教科書を読むだけでは分からないことを、目で見て学ぶことができました。また、原子爆弾の威力や影響も学ぶことができました。広島に落とされた原子爆弾は、上空約 600m という高

い場所で炸裂したのにも関わらず、約 14 万人もの命を奪ってしまったことに衝撃を受けました。

また、平和記念資料館や広島原爆死没者追悼記念館で、亡くなられた被爆者の方の写真や名前を本当にたくさん見ました。その人たちが、私たちのように日常をただ過ごしていただけなのに、たった一発の原子爆弾で、一人一人の家族や人生が奪われたと考えると、胸が痛くなりました。

資料館の資料で目を逸らしたいほど痛々しいものもありました。ですが、この事実から目を逸らしてしまっただけでいつまでも平和は訪れないと思います。

だから、まずは一人一人がこの事実と向き合うことが平和への一歩になると思いました。

戦争を経験していない私たちは、戦争の恐ろしさを経験した方々の痛みや辛さを全て理解することはとても難しいことだと思います。

そして、戦争の恐ろしさを知っている被爆者の語り部の方の高齢化が進んでいます。

だからこそ、**私たちが戦争について理解して、痛みや辛さを全て理解できなくても、次の世代に伝え続けていくことが大切**だと感じました。

また、今の私たちは、毎日おいしいご飯を食べられたり、安心して休むことができたりしています。私たちにとっては当たり前の日常ですが、当時の人にとっては当たり前ではありませんでした。だから、私たちは本当に恵まれていると改めて感じました。

私たちは、この事実から目を逸らさず、理解し、次の世代に伝え続けていくことが必要です。平和がいつまでも続き、もう二度とこのようなことが起こらないことを願います。

以上で、広島派遣の報告を終わります。

.....

一生懸命平和について学び、そしてよく考え、時間をかけて丁寧にまとめたことが伝わってきて、報告を聞いた私たちの心に響く素晴らしいものでした。今回、別紙としてお知らせすることも、戦争について理解することにつながるとともに、平和を世界中の人々で創り上げる一歩となります。戦争を起こすのも人間です。でも、それ以上に戦争を許さない努力ができるのも人間です。皆で努力を続けていきましょう。 さん、ありがとうございました。